

2018年6月4日
株式会社キュラディムファーマ

第三者割当増資の実施に関するお知らせ

株式会社キュラディムファーマ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：内ヶ崎哲、以下「当社」）は、株式会社産業革新機構（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英）、並びに、SMBCベンチャーキャピタル株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：石橋達史）、DBJキャピタル株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：鹿島文行）及び山口キャピタル株式会社（本社：山口県山口市、代表取締役：森脇不知奈）がそれぞれ運営するファンドを引受先として、総額11億76百万円の第三者割当増資を実施いたしましたので、お知らせいたします。

当社は、日本に眠っている有望な創薬シーズを発掘し、非臨床試験から早期臨床開発までを専門的に行うパイプライン型創薬ベンチャーです。近年、国内製薬企業で研究開発されていたシーズが、事業戦略の変更などに伴って研究開発が中断されるケースが増えており、その結果、有望な日本発シーズが実用化されにくくなっています。当社は、こうした課題を解決することで、日本発の画期的新薬を開発し、アンメットメディカルニーズの高い疾患の治療に貢献することを目指しています。

当社は、現在、スフィンゴシン1-リン酸受容体調節薬（開発コード：CP1050）及びリゾホスファチジン酸受容体1選択的アンタゴニスト（開発コード：CP2090）の2つの開発パイプラインを保有しております。今回の第三者割当増資により調達した資金により、CP1050については、現在実施している第I相臨床試験を、CP2090については、今後開始する予定のGLP^{*1}に準拠した非臨床試験を推進してまいります。

CP1050は、当社が2016年7月にMeiji Seikaファルマ株式会社から導入した化合物で、多発性硬化症をはじめとする自己免疫疾患の治療薬として開発を進めています。現在、英国において第I相臨床試験を実施しております。

CP2090は、当社が2018年3月に宇部興産株式会社から導入した化合物で、特発性肺線維症や非アルコール性脂肪肝炎などの線維症^{*2}の治療薬として開発を進めています。当社は、本年中にGLPに準拠した非臨床試験を開始する予定です。

株式会社キュラディムファーマについて

- ・ 設立 2016 年 6 月 29 日
- ・ 事業内容 医薬品の研究開発
- ・ 本社所在地 東京都千代田区
- ・ 代表取締役社長 内ヶ崎 哲
- ・ URL <http://curadim.co.jp/>

【語句説明】

- *1 Good Laboratory Practice の略で、日本語では「医薬品の安全性試験の実施に関する基準」。非臨床安全性試験を適切に実施してデータの信頼性を確保するための基準です。
- *2 線維症は、肺、肝臓又は腎臓などの生命活動に重要な臓器に炎症が起こり、その回復の過程で I 型コラーゲンなどの膠原繊維が集積することで、臓器が弾性を失って硬化し正常な役割が出来なくなる疾患とされています。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社 キュラディムファーマ 経営管理部 横山
東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティグランキューブ 3階
電 話：03-4243-8654（代表）